



# Catalyst 3560-C/2960-C スイッチ クイック スタート ガイド

---

- [このマニュアルについて](#)
- [梱包内容](#)
- [Express Setup の実行](#)
- [スイッチの管理](#)
- [スイッチの設置](#)
- [スイッチ ポートへの接続](#)
- [問題が発生した場合](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)

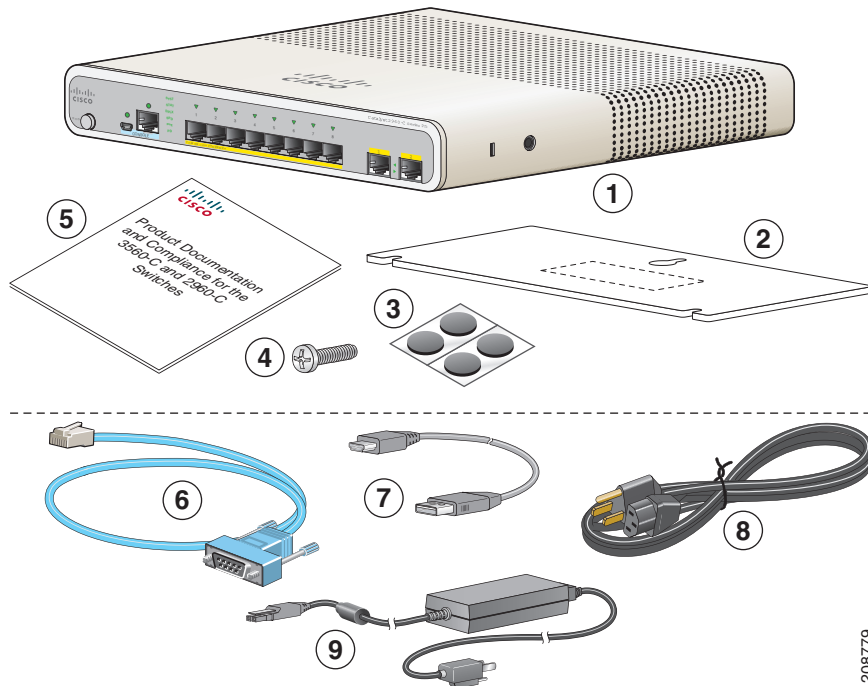
# このマニュアルについて

このマニュアルでは、Express Setup を使用して Catalyst 3560-C および 2960-C スイッチを初期設定する方法について説明します。また、スイッチ管理オプション、基本的な設置方法、ポートとモジュールの接続手順、トラブルシューティングについても説明します。

スイッチのその他の設置方法や設定情報については、Cisco.com で提供されている Catalyst 3560-C および 2960-C のマニュアルを参照してください。また、システム要件、重要な注意事項、制限事項、未修正および修正済みのバグ、マニュアル最終版に含まれていない更新情報などについては、Cisco.com で提供されているリリース ノートを参照してください。このマニュアルに記載されている警告の各国語版については、Cisco.com で提供されている『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560-C and 2960-C Switches』を参照してください。

オンライン マニュアルの使用時には、スイッチで実行している Cisco IOS ソフトウェアのバージョンと一致するドキュメントを参照してください。

# 梱包内容



208779

1	Catalyst 2960-C スイッチ <sup>1</sup>	6	コンソール ケーブル <sup>2</sup>
2	取り付け用テンプレート	7	USB ケーブル <sup>2</sup>
3	ゴム製の脚× 4	8	AC 電源コード <sup>3</sup>
4	No. 8 なベネジ× 3	9	電源アダプタ <sup>4</sup>
5	マニュアル		

1. Catalyst 2960CPD-8PT-L スイッチを例として取り上げています。スイッチのモデルによっては外観が異なる場合があります。
2. すべての Catalyst 2960-C および 3560-C スイッチでご注文いただけます。
3. AC 電源コネクタ対応のスイッチでご注文いただけます。
4. AUX 電源コネクタ対応のスイッチでご注文いただけます。

# Express Setup の実行

Express Setup を使用して、初期 IP 情報を入力します。これにより、IP アドレスを使ってスイッチにアクセスし、詳細設定できるようになります。



**(注)** CLI ベースの初期セットアッププログラムを使用するには、スイッチハードウェアガイドの付録 C 「Configuring the Switch with the CLI Setup Program」を参照してください。

次の装置が必要です。

- Windows 2000、XP、Vista、Windows Server 2003 のいずれかがインストールされた PC
- JavaScript が有効になっている Web ブラウザ（Internet Explorer 6.0、7.0、Firefox 1.5、2.0、またはそれ以降）
- カテゴリ 5 または 6 のストレートまたはクロス ケーブル



**(注)** Express Setup を実行する前に、ブラウザのポップアップ ブロッカーやプロキシ設定、および PC で実行しているワイヤレス クライアントをディセーブルにします。

**ステップ 1** スイッチに何も接続されていないことを確認してください。

Express Setup の実行中、スイッチは DHCP サーバとして動作します。PC に固定 IP アドレスが設定されている場合、DHCP を使用するように PC の設定を一時的に変更してから次の手順に進んでください。

**(注)** 固定 IP アドレスを書き留めておきます。この IP アドレスは **ステップ 10** で必要となります。

---

**ステップ 2** スイッチを電源に接続します。

AC 電源コネクタ対応のスイッチ モデルの場合

- AC 電源コードを AC 電源コネクタと AC 電源コンセントにつなぎます。

AUX 電源コネクタ対応のスイッチ モデルの場合

- 10/100/1000 アップリンク ポートを Catalyst 3750-X などの PoE スイッチに接続します。

または

- 補助電源アダプタ コードを AUX 電源コネクタと AC 電源コンセントにつなぎます。

**(注)** スイッチへの電力供給の詳細については、ハードウェア ガイドの「Switch Installation」(スイッチの設置)の章を参照してください。

---

**ステップ 3** スイッチに電源を入れてから約 30 秒後に、Power-on Self-Test (POST; 電源投入時セルフテスト) が開始します。POST には最大 5 分かかることがあります。

POST 中は、システム LED がグリーンに点滅します。他の LED はグリーンに点灯したままになります。

POST が完了すると、システム LED はグリーンに点灯し、他の LED は消灯します。

**トラブルシューティング：**

システム LED がグリーンに点滅したり、グリーンにならなかったり、オレンジになったりした場合は、製品の購入代理店までお問い合わせください。この場合は、スイッチの POST でエラーが発生していることになります。

---

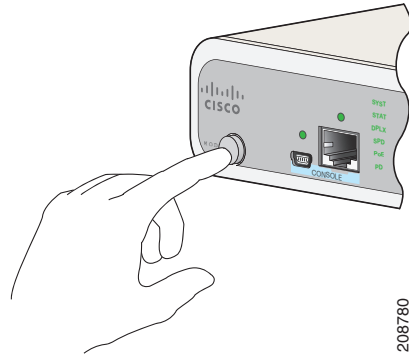
**ステップ 4** コンソールポートの横にある LED がグリーンになるまで MODE ボタンを押し続けます。3～5 秒間ボタンを押し続ける必要があります。

スイッチが Express Setup モードになります。

次の手順に進む前に、コンソールポートの横にあるすべての LED がグリーンになっていることを確認してください。

#### トラブルシューティング：

MODE ボタンを押して LED が点滅したら、ボタンから手を放します。LED が点滅する場合はスイッチが設定済みであり、Express Setup モードを開始できません。詳細については、「[スイッチのリセット](#)」(P.24) を参照してください。スイッチハードウェアガイドで説明されている CLI セットアッププログラムを使用することもできます。



208780

**ステップ 5** カテゴリ 5 または 6 のイーサネット ケーブルを、スイッチのフロント パネルにある任意の 10/100 または 10/100/1000 イーサネット ダウンリンク ポート（ポート 1 など）に接続します。

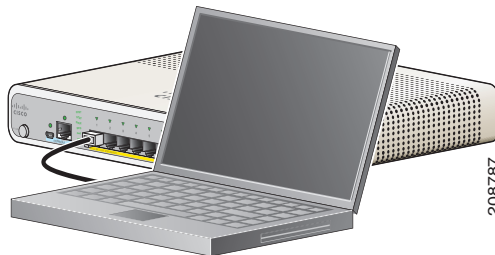
ケーブルのもう一端を PC のイーサネット ポートに接続します。

次の手順に進む前に、スイッチと PC またはラップトップのポート LED がグリーン（点灯または点滅）になるまで待ちます。グリーンのポート LED は、接続に成功したことを意味します。

#### トラブルシューティング：

約 30 秒経過してもポート LED がグリーンにならない場合は、次の項目を確認してください。

- （両用ポートなどのアップリンクポートではなく）ダウンリンク スイッチ ポートのいずれかに、イーサネット ケーブルが接続されていること。
- 損傷のないカテゴリ 5 または 6 のイーサネット ケーブルを使用していること。
- その他のデバイスがオンになっていること。



**ステップ 6** Web ブラウザに IP アドレス **10.0.0.1** を入力し、**Enter** キーを押します。

メッセージが表示されたら、デフォルトのパスワード「cisco」を入力します。

**(注)** ユーザ名フィールド内のテキストは無視されます。

[Express Setup] ウィンドウが表示されます。

#### トラブルシューティング：

[Express Setup] ウィンドウが表示されない場合、ブラウザのポップアップブロックャーやプロキシ設定がすべて無効になっているかどうか、PC またはラップトップのワイヤレス クライアントがすべて無効になっているかどうかを確認してください。





**ステップ 7** [Express Setup] ウィンドウで必要な設定を入力します。

(注) 情報はすべて英数字で入力する必要があります。

### 必須フィールド

[Network Settings] フィールド：

- [Management Interface (VLAN ID)] フィールドにデフォルト値の **1** を入力します。

(注) デフォルトの VLAN 値を使用することをお勧めします。Express Setup の実行中、スイッチ上の VLAN は VLAN 1 だけです。

スイッチを管理する管理インターフェイスを変更する場合に限り、新しい VLAN ID を入力します。VLAN ID の範囲は 1 ~ 1001 です。

- [IP Address] フィールドにスイッチの IP アドレスを入力します。
- [Subnet Mask] フィールドのドロップダウン矢印をクリックし、サブネット マスクを選択します。
- [Default Gateway] フィールドに、デフォルト ゲートウェイ (ルータ) の IP アドレスを入力します。
- [Switch Password] フィールドに自分のパスワードを入力します。このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で、数字から開始でき、大文字と小文字が区別されません。スペースを挿入できますが、最初と最後にスペースを使用することはできません。[Confirm Password] フィールドにもう一度パスワードを入力します。

(注) デフォルト パスワード 「cisco」 から、パスワードを変更する必要があります。

### 追加フィールド

オプション情報をここで入力することも、デバイス マネージャを使用してあとで情報を入力することもできます。[Express Setup] のフィールドの詳細については、[Express Setup] ウィンドウのオンライン ヘルプを参照してください。

[Submit] をクリックして変更を保存し、初期設定を完了します。

- 
- ステップ 8** [Submit] をクリックすると、次のイベントが発生します。
- スイッチの設定が完了し Express Setup モードが終了する。
  - ブラウザに警告メッセージが表示されて、スイッチの以前の IP アドレスによる接続が試行される。多くの場合、設定されたスイッチの IP アドレスと PC の IP アドレスのサブネットが異なっていることが原因で、PC とスイッチの接続が失われます。
- 
- ステップ 9** スイッチを PC から切り離し、ネットワーク内に設置します。「[スイッチの設置](#)」(P.15) を参照してください。
- 
- ステップ 10** 手順 1 で PC の固定 IP アドレスを変更した場合は、元の設定に戻します。
-

**ステップ 11** これで、Cisco Network Assistant とデバイス マネージャのいずれかまたは両方を使用してスイッチを管理できるようになりました。スイッチの設定と管理については、「[スイッチの管理](#)」(P.12) を参照してください。

デバイス マネージャを表示する手順は、次のとおりです。

1. PC またはラップトップ コンピュータで Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザでスイッチの IP アドレス、ユーザ名、およびパスワード（[ステップ 7](#) で割り当てられたもの）を入力し、**Enter** キーを押します。デバイス マネージャのページが表示されます。

### トラブルシューティング：

デバイス マネージャが表示されない場合は、次の項目を確認します。

- ネットワークに接続されているスイッチ ポートの LED がグリーンであることを確認します。
- スイッチへのアクセスに使用している PC やラップトップがネットワークに接続されていることを、ネットワーク内の既知の Web サーバに接続して確認します。ネットワーク接続が設定されていない場合は、PC やラップトップ コンピュータでネットワーク設定のトラブルシューティングを実行してください。
- ブラウザで入力したスイッチの IP アドレスが正しいことを確認します。
- ブラウザに入力したスイッチの IP アドレスが正しく、スイッチ ポートの LED がグリーンになっており、PC やラップトップ コンピュータにネットワーク接続が設定されている場合は、PC やラップトップ コンピュータをスイッチに再接続し、トラブルシューティングを続行します。スイッチの IP アドレスと同じサブネット内の PC やラップトップ コンピュータで、固定 IP アドレスを設定します。具体的には以下のようになります。
  - スイッチの IP アドレスが 172.20.20.85 で、PC またはラップトップ コンピュータの IP アドレスが 172.20.20.84 の場合、2 つのデバイスは同じネットワーク上にあります。
  - スイッチの IP アドレスが 172.20.20.85 で、PC またはラップトップ コンピュータの IP アドレスが 10.0.0.2 の場合、2 つのデバイスは異なるネットワーク上にあるため、直接通信できません。
- PC やラップトップ コンピュータに接続されているスイッチ ポートの LED がグリーンの場合は、Web ブラウザでスイッチの IP アドレスを再入力し、デバイス マネージャを表示します。デバイス マネージャが表示されたら、設定を続行できます。

# スイッチの管理

Express Setup が完了し、スイッチをネットワークに設置したら、次のいずれかを使用してその他の設定を実行できます。

- [デバイス マネージャ](#)
- [Cisco Network Assistant](#)
- [コマンドライン インターフェイス \(CLI\)](#)
- [その他の管理オプション](#)

## デバイス マネージャ

スイッチを管理する最も簡単な方法は、スイッチ メモリ内のデバイス マネージャを使用することです。この Web インターフェイスによって、設定とモニタリングをすばやく実行できます。デバイス マネージャは、Web ブラウザを使用することにより、ネットワーク上の任意の場所からアクセスできます。

1. PC またはワークステーションで Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザにスイッチの IP アドレスを入力し、**Enter** キーを押します。デバイス マネージャのページが表示されます。
3. デバイス マネージャを使って、基本的なスイッチの設定やモニタを実施します。詳細については、デバイス マネージャのオンライン ヘルプを参照してください。
4. 高度な設定については、Cisco Network Assistant をダウンロードして実行してください。これについては次で説明します。

## Cisco Network Assistant

Cisco Network Assistant は、Cisco.com からダウンロードして自分の PC で使用できるソフトウェアです。Cisco Network Assistant には、スイッチ、スイッチ クラスタ、スイッチ スタック、ルータ、アクセス ポイントなどの複数の装置を構成してモニタするための詳細なオプションが用意されています。Cisco Network Assistant は無料です。ダウンロード、インストール、使用しても料金は発生しません。

1. Web サイト <http://www.cisco.com/go/NetworkAssistant> にアクセスします。  
アクセスするには Cisco.com に前もって登録する必要があります（これ以外に必要なアクセス権限はありません）。
2. Network Assistant インストーラを検索します。
3. Network Assistant インストーラをダウンロードして、実行します（ブラウザに Web から直接実行する選択肢が表示された場合には、Web から直接実行できます）。
4. インストーラを実行するときは、表示されるインストラクションに従います。最後の画面で [Finish] をクリックし、Network Assistant のインストールを終了します。

詳細は、Network Assistant のオンライン ヘルプおよびクイック スタート ガイドを参照してください。

## コマンドライン インターフェイス (CLI)

CLI を使用することにより Cisco IOS コマンドとパラメータを入力できます。次のいずれかの方法を使用して CLI にアクセスします。

- [スイッチの RJ-45 コンソール ポート](#)
- [スイッチの USB mini-B タイプ コンソール ポート](#)

## スイッチの RJ-45 コンソール ポート

1. 付属の RJ-45-to-DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアル ポートに接続します。ケーブルの反対側をスイッチのコンソール ポートに接続します。
2. PC で、端末エミュレーション プログラムを起動します。
3. PC 端末エミュレーション ソフトウェアを、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビット、フロー制御なしに設定します。
4. CLI を使って、スイッチを設定するコマンドを入力します。詳細については、『Software Configuration Guide』および『Command Reference』を参照してください。

## スイッチの USB mini-B タイプ コンソール ポート

USB-mini コンソール ポートを使用する場合、そのポートに接続する PC に Cisco Windows USB デバイス ドライバをインストールする必要があります。インストール手順については、スイッチのハードウェア インストレーション ガイドを参照してください。

5. PC で、端末エミュレーション プログラムを起動します。
6. PC 端末エミュレーション ソフトウェアを、9600 ボー、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビット、フロー制御なしに設定します。
7. CLI を使って、スイッチを設定するコマンドを入力します。詳細については、『Software Configuration Guide』および『Command Reference』を参照してください。



(注) スイッチのコンソール ポートと USB-mini コンソール ポートを同時に使用して CLI にアクセスすることはできません。

## その他の管理オプション

CiscoWorks LAN Management Solution (LMS) や Cisco netManager などの SNMP 管理アプリケーションを使用して、スイッチを設定および管理できます。また、Cisco netManager や SunNet Manager などのアプリケーションが稼動している SNMP 対応のワークステーションからスイッチを管理することもできます。

Cisco Configuration Engine は、スイッチのソフトウェアに組み込まれた Cisco Networking Services (CNS) エージェントと連携するネットワーク管理デバイスです。これを使用することにより、スイッチの自動初期設定および設定更新を実行できます。

対応するマニュアルの一覧は、「[オンラインヘルプの利用](#)」(P.25) を参照してください。

## スイッチの設置

このセクションでは、机への取り付け方法について説明します。例として使用する図はすべて Catalyst 2960CPD-8PT-L スイッチのものです。取り付けトレイやマグネットを使用してラック内、机の下、壁面などに取り付ける方法の詳細については、Cisco.com で提供されている『Catalyst 3560-C and 2960-C Switch Hardware Installation Guide』を参照してください。

## 必要な器具

- No. 2 プラス ネジ用ドライバ
- #27 ドリルビット (3.7 mm [0.144 インチ]) 付きドリル

## 作業を開始する前に

スイッチを設置する前に、次のガイドラインを満たしていることを確認してください。

- フロントパネルの周囲に十分な空間があり、LED がよく見えること。

- 電源コンセントからスイッチのコネクタまで電源コードが届くこと。
- ケーブルはラジオ、電力線、蛍光灯などの電気ノイズの発生源から遠ざけて配線されていること。
- 装置周辺の温度が 45°C (113°F) を超えないこと。閉じたラックまたはマルチラックにスイッチを設置する場合は、周辺温度が室温より高くなる場合があります。
- スイッチ周辺の湿度が 95% を超えないこと。
- 取り付け場所の標高が 10,000 フィート (3,048 m) を超えないこと。
- スイッチの周囲や通気口のエアフローが妨げられないこと。スイッチの左右と上に少なくとも 7.6 cm (3 インチ) の空間を作り、エアフローが妨げられないようにすることを強くお勧めします。ラック内にスイッチを設置する場合は、少なくとも 4 cm (1.75 インチ) の空間を各スイッチの上に作ってください。
- スイッチを平らな水平面に設置する場合は、スイッチにゴム製の脚を付けていること (強く推奨)。
- 10/100/1000 固定ポートの場合、スイッチから接続先装置までのケーブル長が 100 m (328 フィート) 以内であること。
- Small Form-Factor Pluggable (SFP; 着脱可能小型フォーム ファクタ) モジュール接続のケーブル長については、Cisco.com で提供されているハードウェア インストール ガイドと、モジュールのマニュアルを参照してください。

## 設置に関する警告

このセクションでは、設置に関する基本的な警告を説明します。各国語版の警告は、Cisco.com で提供されている『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560-C and 2960-C Switches』に記載されています。



### 警告

この装置をラックに設置したり保守作業を行ったりするときは、人身事故を防ぐため、ブレがなく安定しているかを十分に確認する必要があります。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。



ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下にして、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付属している場合は、スタビライザを取り付けてから、スイッチの設置したり、ラック内のスイッチを保守してください<ステートメント 1006>。



警告

クラス1 レーザー製品です <ステートメント 1008>。



警告

この装置はアース接続する必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アース接続が適正であるかどうか分からない場合は、電気検査機関または電気技術者に相談してください<ステートメント 1024>。



警告

スイッチの過熱を防止するために、室温が 45°C (113°F) を超える環境では使用しないでください<ステートメント 1047>。



(注)

Catalyst 3560CG-8PC-S、3560CG-8TC-S、2960CG-8TC-L スイッチの場合、推奨される最高周辺温度は 40°C (104°F) です。



警告

空気の通りをよくするために通気口の周りに隙間を空けてください (幅 : 7.6 cm (3 インチ)) <ステートメント 1076>。

## 机または棚への設置（取り付けネジなし）

取り付けネジを使用せずにスイッチを机に設置するには、スイッチの底面にゴム製の脚を4個取り付けます。

## 机または棚への設置（取り付けネジ使用）

取り付けネジを使用してスイッチを次の場所に設置できます。

- 机や棚の上
- 机や棚の下
- 壁面



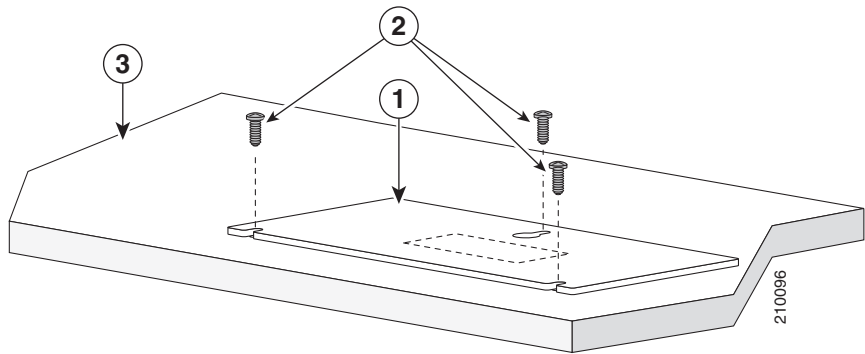
**(注)** 机の下や壁面にスイッチを設置する方法については、Cisco.com で提供されているハードウェア インストール ガイドを参照してください。

スイッチを机や棚の上または下に固定するには、取り付け用テンプレートと3本の取り付けネジを使用します。

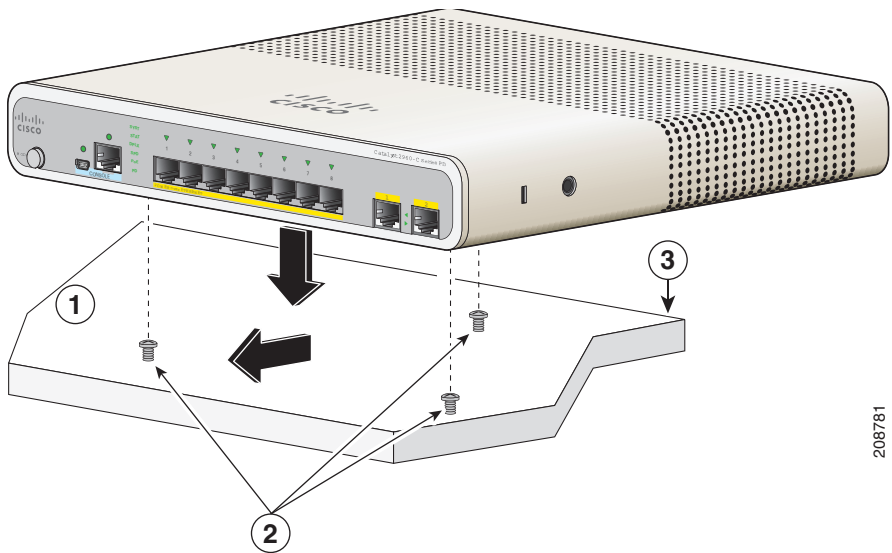
1. スロットが2つ並んでいる方を前にして、取り付け用テンプレートを設置面に配置します。底面から粘着テープをはがし、テンプレートを貼り付けます。
2. 3.7 mm (0.144 インチ) または No.27 のドリルビットを使用して、テンプレートの3つのネジスロット位置に 12.7 mm (1/2 インチ) の穴を開けます。
3. テンプレートのスロットにネジを挿入し、テンプレートに触れるまでネジを締めます。設置面からテンプレートを取り外します。



**(注)** 付属の No. 8 なベネジ、またはそれよりも大きなベネジを使用して、スイッチをしっかりと固定してください。



1	取り付け用テンプレート	3	机または棚
2	ネジ		



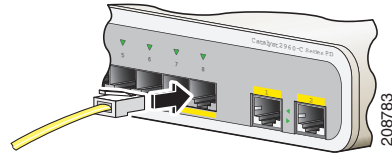
1	この方向にスライドさせる	3	机または棚
2	ネジ		

4. 取り付けネジの位置にスイッチを置き、前へスライドさせて固定します。

# スイッチ ポートへの接続

## 10/100 および 10/100/1000 ポートへの接続

**ステップ 1** サーバ、ワークステーション、IP Phone、ワイヤレス アクセス ポイント、ルータに接続する場合は、スイッチの 10/100/1000 ポートにカテゴリ 5 の 4 ツイストペア ストレート ケーブルを挿入します。他のスイッチ、ハブ、リピータに接続する場合は、カテゴリ 5 の 4 ツイストペア クロス ケーブルを使用します。



**ステップ 2** 接続先装置の RJ-45 ポートにケーブルの反対側を差し込みます。

一部の Catalyst 3560-C および 2960-C モデルの固定ポートは、Power over Ethernet (PoE) と PoE+ をサポートしています。詳細については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。一部のモデルは PoE パススルーもサポートしています。PoE パススルー機能の詳細については、スイッチ ハードウェア ガイドを参照してください。

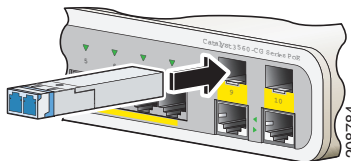


**(注)** デフォルトで Automatic Medium-Dependent Interface Crossover (Auto-MDIX) 機能がイネーブルに設定されます。スイッチは銅線イーサネット接続に必要なケーブル タイプを検知し、インターフェイスを設定します。接続先装置のタイプにかかわらず、スイッチの銅線 10/100/1000 モジュール ポートには、クロス ケーブルまたはストレート ケーブルのどちらでも使用できます。

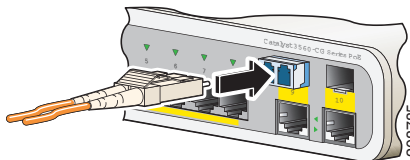
## SFP モジュールの取り付け

一部の Catalyst 3560-C および 2960-C モデルは SFP モジュール スロットを装備しています。

- ステップ 1** モジュールの両側をつかみ、スイッチ スロットの奥にカチッとハマるまでモジュールを押し込みます。



- ステップ 2** 適切なケーブルをモジュールのポートに接続します。ケーブルの反対側を接続先装置に接続します。



サポートされるモジュールのリストについては、Cisco.com で提供されているリリース ノートを参照してください。SFP モジュールの取り付け、取り外し、接続の詳しい手順については、SFP モジュールに付属しているマニュアルを参照してください。



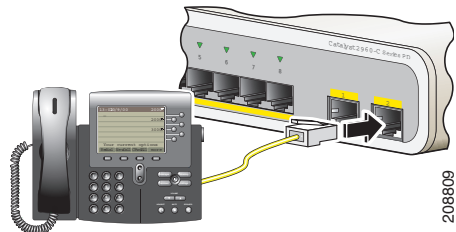
### 注意

SFP モジュールは、着脱によって製品寿命が短くなることがあります。SFP モジュールの取り付けや取り外しは必要最低限にしてください。

## PoE 装置への接続

IP フォンやアクセス ポイントなどの IP 装置にスイッチを接続できます。一部のスイッチ モデルは、余剰電力に応じて IP 装置に電力を供給できます。詳細については、スイッチ ハードウェア ガイドを参照してください。

- ステップ 1** 10/100 または 10/100/1000 ダウンリンクポートを IP フォンやワイヤレス アクセス ポイントなどに接続する場合、カテゴリ 5 の 4 ツイスト ペア ストレート ケーブルをスイッチのポートに挿入します。



- ステップ 2** 接続先装置の RJ-45 ポートにケーブルの反対側を接続します。

## ポート接続の確認

スイッチのポートと別の装置を接続すると、スイッチがリンクを確立する間、ポート LED はオレンジに点灯します。このプロセスには 30 秒ほどかかり、その後 LED はグリーンに点灯します。LED が消灯する場合、接続先装置が起動していない、ケーブルに問題がある、接続先装置のアダプタに問題があるなどの理由が考えられます。オンライン サポートについては「[問題が発生した場合](#)」(P.22) を参照してください。

## 問題が発生した場合

問題が発生した場合、このセクションのヘルプ情報を参照してください。このヘルプ情報は Cisco.com にも掲載されています。このセクションでは、Express Setup のトラブルシューティング、スイッチのリセット方法、オンライン ヘルプへのアクセス方法、詳細情報の参照先について説明します。

## Express Setup のトラブルシューティング

Express Setup が実行されない、または Express Setup のページがブラウザに表示されない場合：

---

Express Setup を起動する前に POST が正常に動作するのを確認しましたか。

POST の動作を確認していない場合、SYST および STAT LED のみがグリーンになっていることを確認してから MODE ボタンを押すと、Express Setup モードに切り替わります。

POST エラーは通常、修復不可能です。スイッチが POST にパスしなかった場合は、シスコのテクニカル サポート 担当者までお問い合わせください。

スイッチが POST を実行しているときに MODE ボタンを押しましたか。

POST 実行中にボタンを押した場合、POST が完了するまでお待ちください。スイッチの電源を切って再投入してください。POST が完了するまで待ちます。SYST および STAT LED がグリーンであることを確認します。MODE ボタンを押すと Express Setup モードになります。

---

スイッチが Express Setup モードであることを確認せずに操作を続けようとしたか。

RJ-45 コンソール ポートの横にあるすべての LED がグリーンであることを確認します。必要に応じて、MODE ボタンを押して Express Setup モードを開始します。

PC に固定 IP アドレスが設定されていますか。

PC に固定 IP アドレスが設定されている場合、PC を一時的に DHCP を使用する設定に変更してからスイッチに接続します。

スイッチ ポートと PC のイーサネット ポートを、イーサネット ストレート ケーブルではなくクロス ケーブルで接続しましたか。

クロス ケーブルで接続されている場合、スイッチと PC のイーサネット ポートはストレート ケーブルで接続します。30 秒経過してから、ブラウザで **10.0.0.1** と入力します。

---

イーサネット ケーブルを、スイッチの 10/100/1000 イーサネット ポートではなく、コンソール ポートに接続しましたか。

コンソール ポートに接続している場合は、コンソール ポートからケーブルを取り外します。その後、ケーブルをスイッチと PC のイーサネット ポートに接続します。30 秒経過してから、ブラウザで **10.0.0.1** と入力します。

(注) コンソール ポートの周囲は青、イーサネット ポートの周囲は黄色です。

スイッチと PC を接続したあと、30 秒経過してからブラウザに IP アドレスを入力しましたか。

30 秒経過していない場合、30 秒経過してから再度ブラウザで **10.0.0.1** と入力し、**Enter** キーを押してください。

ブラウザに間違ったアドレスを入力したりエラーメッセージが表示されたりしていますか。

いずれかに該当する場合、再度ブラウザで **10.0.0.1** と入力し、**Enter** キーを押してください。

## スイッチのリセット

スイッチを出荷時のデフォルトの設定にリセットする手順は、次のとおりです。スイッチのリセットが必要なのは次のような場合です。

- ネットワークにスイッチを設置したが、割り当てた IP アドレスが間違っていたために接続できない。
- スイッチのパスワードをリセットする必要がある。



---

スイッチをリセットすると、スイッチが再起動します。

---



スイッチをリセットするには、次のいずれかの方法を実行します。

- リア パネルのリセット ボタンを押します。
- MODE ボタンを押し続けます。約 3 秒後にスイッチの LED が点滅し始めます。MODE ボタンを押し続けます。7 秒後に LED の点滅が止まり、スイッチが再起動します。

スイッチは未設定の状態になります。「[Express Setup の実行](#)」(P.4) の説明に従って Express Setup を使用して、スイッチの IP 情報を入力してください。

## オンライン ヘルプの利用

まず、Cisco.com で提供されているスイッチのハードウェア インストール ガイドまたはソフトウェア コンフィギュレーション ガイドのトラブルシューティング セクションで、問題の解決方法を探します。また、シスコの Technical Support and Documentation Web サイトには、ハードウェアの既知の問題や、トラブルシューティングに関するさまざまなマニュアルのリストが掲載されています。

## 関連情報

スイッチの詳細については、Cisco.com で次のマニュアルを参照してください。

- 『Release Notes for the Catalyst 3560-C Switch』
- 『Release Notes for the Catalyst 2960-C Switch』
- 『Catalyst 3560-C and 2960-C Switch Hardware Installation Guide』
- 『Regulatory Compliance and Safety Information for the Catalyst 3560-C and 2960-C Switches』
- 『Catalyst 2960 and 2960-S Switch Software Configuration Guide』
- 『Catalyst 2960 and 2960-S Switch Command Reference』
- 『Catalyst 3560 Switch Software Configuration Guide』
- 『Catalyst 3560 Switch Command Reference』
- 『Catalyst 3750, 3560, 3550, 2975, 2970, 2960, and 2960-S Switch System Message Guide』

# マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

マニュアルの入手方法、Service Request の使用、およびその他の情報の取得については、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧が掲載されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は Really Simple Syndication (RSS) フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

Cisco および Cisco ロゴは、米国、およびその他の国における Cisco Systems, Inc.、およびその関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は、[www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks) に掲載されています。本書に記載されているサードパーティの商標は、各社の所有物です。本書で使用されている「パートナー」という用語は、シスコと他社とのパートナー関係を意味するものではありません。(1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2011 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.